

2008/12/12, ESDセミナー@エコフロダケY2008

教養教育の意味を問い直す 岩手大学「学びの銀河」プロジェクト

玉 真之介
(岩手大学理事・副学長)



全学共通教育の教育目標

さらに、教育目標の達成に当たっては、国連「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD) の10年」(注)を共通に意識することに努めています。

→目標として、ESDを共有



教養教育から逃げた中教審

- 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」
- 「教養」の意味・内容をめぐっては、多年にわたって様々な議論のあるところであるが、今回は、「学習成果」という観点から、参考指針として記述している。これらは、「教養」を身に付けた市民として少なくとも行動できる能力として位置づけることができる。

→「学士力」



何のための能力か？

- 何のための高等教育か？
- 「次世代の育成を通じて地域の民主的で平和で持続可能な発展に寄与することが大学の主要な役割である。」(Baltic University Programme)
- どういう社会を作るのか？を、さておいて、「学士力」の保証だけ提起した中教審



価値観こそESDのハート

- 教養教育の軸心は価値観ではないか？
- 大学は、カルチャースクールではない。
- 教養教育には、「旗印」が必要
- それは、すべての科目をネットワークでつなぐ価値観であるだろう。



宮澤賢治ゆかりの大学として

- 「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」
- 「正しく強く生きるとは銀河系を自らの中に意識して、これに応じていくことである、われらは世界のまことの幸福を索ねよう、求道すに道である」

「農民芸術概論綱要」



みんなのほんとうのさいわい

- 「僕もうあんな大きな闇のなかだつてこわくない。きっとみんなのほんとうのさいわいをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んで行こう。」

「銀河鉄道の夜」

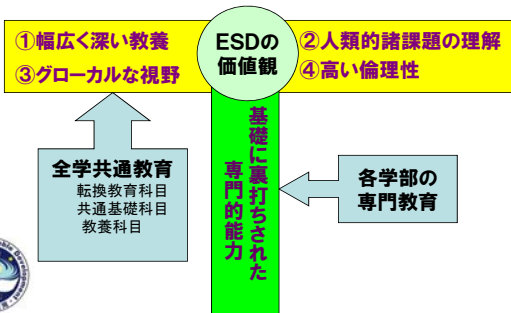


岩手大学の挑戦： 「学びの銀河」プロジェクト

- 人材養成上の目的：持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材＝「21世紀型市民」
- ESDを「旗印」として、すべての共通教育科目にESDを織り込む＝あらゆる教育と学び
 - (1) 教職員・学生の間での教育目標の共有化
 - (2) 「T字型」人間の育成
 - (3) 価値観を中心に置き、宮澤賢治を重ねる



ESDによる「T」字型人間

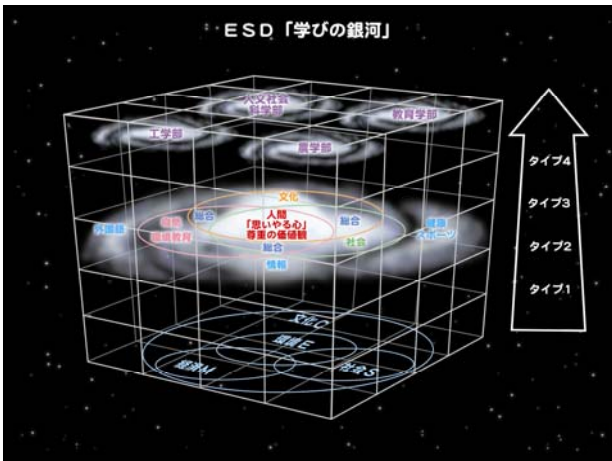
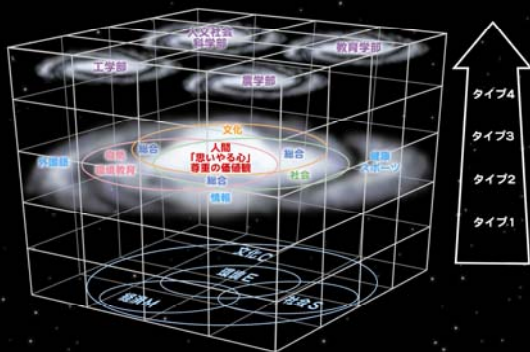


授業科目の構造化と可視化

- 4つの領域：総合性（相互関連性）
→ 環境E、社会S、経済M、文化C
- 4つのタイプ：実践性（学びを行動へ）
 - 「関心の喚起」タイプ1
 - 「理解の広がり」と深化」タイプ2
 - 「学生参加型」タイプ3
 - 「問題解決の体験」タイプ4



ESD「学びの銀河」



科目の新陳代謝

- 常に新しい科目を増やしていく
 - 持続可能なコミュニティーづくり実践学(EMS2)
 - 地元の企業に学ぶESD(EM2)
 - 地場産業・企業論(M2)
 - 健康のセルフコントロールと社会参加(S4)
- 高年次教養科目(3、4年生向け、問題解決の体験)
 - 都市の自然再生プランニング(E4)
 - 男女共同参画の実践を学ぶ(SC4)
 - 北上川流域学実習(E4)
 - 津波の実際から防災を考える(ES4)



3つのウイング(連携)

- 世界の大学との連携
2007.8.30~9.2: ESD国際シンポジウム
- 国内の大学との連携
2007.12.22: HESDフォーラム2007in盛岡
- 県内の学校教育との連携
2008.7.5: 岩手県幼小中高大専ESDサミット
開催



大学間連携の旗印

- いわて5大学共同シンポジウム
「地域共創—持続可能な地域社会をめざして—」(2008. 11. 22)
- 北東北三大学北欧大学間連携調査
(2008.9.21-28)
Baltic University Programmeほか



「あらゆる教育と学習」という挑戦

- ESDは、個別の専門分野をつくることではない。あらゆる教育と学びの場に、織り込まれていく必要がある
- 岩手大学が取り組む社会実験
学士課程教育の課題とESDのリンク



ご静聴、ありがとうございました

